

【ポスター発表】

高齢者と障害者の看取り・終末期に関する研究の動向と課題

—論文タイトルを対象とした計量テキスト分析—

○ 国立のぞみの園／東洋大学 奥西 允 (9851)

キーワード3つ：障害者・看取り（終末期）・計量テキスト分析

1. 研究目的

平成30年度障害者総合福祉推進事業で行われた「障害者支援施設のあり方に関する実態調査」では、看取り・終末期対応の実績について、「ある」と答えた施設は14.6%にとどまっている。さらに、看取り・終末期対応の体制整備状況は、「予定はなく整備していない」が79.1%、マニュアル整備状況は、「予定はなく整備していない」が78.8%であった。だが、現実には、障害者支援施設における死亡退所数は、年々増加傾向にある。これらの調査からは、看取り・終末期対応が必要になる状況が迫っている中で、準備が十分ではないことを読みとれる。障害者支援における看取り・終末期について、議論を深めていくことが喫緊の課題である。本報告では、高齢者と障害者の看取り・終末期に関する研究の動向と課題を把握し、サービスの質の向上に向けた論点整理を行う。

2. 研究の視点および方法

看取り・終末期に関する研究動向を把握するために、本報告では、論文タイトルに着目する。論文タイトルは、研究の中心的なテーマ、分析の視点などを簡潔かつ的確に示す役割をもつ。そのため、論文タイトルを分析することで、研究の動向や課題を把握することができる。論文タイトルを対象に、KH Coderを用いて計量テキスト分析を行った。

医学中央雑誌刊行会 Web版をデータベースとして、高齢者分野と障害者分野を区分し、論文タイトルを検索した。検索キーワードは、「障害者」あるいは「高齢者」に加え、「看取り」「終末期」「緩和ケア」「ターミナルケア」「エンドオブライフケア」を使用した。検索対象年は2000年から2022年まで、論文種は医中誌が定義する原著とした。重複するものを削除するなどして、最終的に、高齢者分野で4,710件、障害者分野で70件の論文タイトルを分析対象とした。

分析では、第1段階として単純集計や多変量解析によるデータの要約を行い、第2段階として研究テーマを探るべくコーディングルールの作成を行い、高齢者分野と障害者分野の比較、経年変化の検討を行った。

3. 倫理的配慮

本報告は、既発表論文のタイトルをデータとしているが、「日本社会福祉学会研究倫理

規定」を遵守した。なお、本報告に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業等はない。

4. 研究結果

主要な結果は、以下の3点である(表1参照)。(1) 高齢者分野と比較すると、障害者分野では、看取り・終末期に関する研究の蓄積が少ない(高齢者分野の1.49%)。(2) 表1の年代合計を確認すると、高齢者分野、障害者分野ともに「人材育成」「グリーフ・苦悩」に関する研究の蓄積は相対的に少ない(どちらも5%以下)。一般高齢者分野では、「連携・チーム」の蓄積が相対的に少ない(10%以下)。(3) 分野ごとに、コードの出現割合について、経年変化をみると、高齢者分野では、「連携・チーム」「意思決定」「治療」が増加傾向にあり、障害者分野では、有意な偏りがみられなかった。

表1 分野ごとに年代×コードのクロス集計

高齢者																			
コード	2000-2002		2003-2005		2006-2008		2009-2011		2012-2014		2015-2017		2018-2020		2021-2022		年代合計	χ ² 値	
在宅	48	26.0%	83	22.3%	127▲	25.7%	108	18.1%	174	22.0%	173	20.0%	176	20.0%	98	18.7%	987	21.0%	16.011*
施設	29	15.7%	70	18.8%	90	18.2%	104	17.4%	159	20.1%	181	21.0%	164	18.6%	89	17.0%	886	18.8%	6.709
連携・チーム	4▼	2.2%	11▼	3.0%	23	4.7%	33	5.5%	52	6.6%	64▲	7.4%	46	5.2%	29	5.5%	262	5.6%	17.031*
人材育成	1	0.5%	2	0.5%	6	1.2%	11	1.8%	10	1.3%	13	1.5%	12	1.4%	4	0.8%	59	1.3%	5.521
意思決定	18	9.7%	38	10.2%	53	10.7%	50▼	8.4%	62▼	7.8%	101	11.7%	122▲	13.9%	90▲	17.2%	534	11.3%	39.451**
家族	34	18.4%	56	15.0%	90	18.2%	89	14.9%	109	13.8%	114	13.2%	130	14.8%	60	11.5%	682	14.5%	13.415
グリーフ・苦悩	2	1.1%	15	4.0%	15	3.0%	30▲	5.0%	16	2.0%	23	2.7%	20	2.3%	15	2.9%	136	2.9%	17.035*
治療	48	26.0%	88▼	23.6%	106▼	21.5%	194	32.4%	248	31.4%	280	32.4%	272	30.9%	196▲	37.4%	1432	30.4%	43.98**
論文数	185		373		494		598		791		864		881		524		4710		

*p<0.05 **p<0.01、▼は有意に少ない、▲は有意に多い(p<0.05)、▼は有意に少ない、▲は有意に多い(p<0.01)

障害者																			
コード	2000-2002		2003-2005		2006-2008		2009-2011		2012-2014		2015-2017		2018-2020		2021-2022		年代合計	χ ² 値	
在宅	1	25.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	20.0%	3	30.0%	0	0.0%	4	26.7%	0	0.0%	9	12.9%	11.242
施設	1	25.0%	0	0.0%	2	28.6%	0	0.0%	1	10.0%	8	50.0%	5	33.3%	4	33.3%	21	30.0%	7.721
連携・チーム	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	20.0%	2	12.5%	6	40.0%	1	8.3%	11	15.7%	10.606
人材育成	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%	0	0.0%	1	1.4%	3.72
意思決定	1	25.0%	0	0.0%	1	14.3%	0	0.0%	2	20.0%	5	31.3%	3	20.0%	4	33.3%	16	22.9%	3.582
家族	1	25.0%	0	0.0%	2	28.6%	2	40.0%	4	40.0%	2	12.5%	3	20.0%	2	16.7%	16	22.9%	4.24
グリーフ・苦悩	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	2	2.9%	4.547
治療	0	0.0%	0	0.0%	2	28.6%	2	40.0%	2	20.0%	1	6.3%	3	20.0%	2	16.7%	12	17.1%	4.999
論文数	4		1		7		5		10		16		15		12		70		

*p<0.05 **p<0.01

5. 考察

高齢者分野に比べて、障害者分野における看取り・終末期に関する論文の蓄積は少ない。

研究テーマに関しては、大まかな傾向として、「意思決定」に関する論文が増加傾向にある。他方で、「意思決定」を下支えする「連携・チーム」「人材育成」をテーマとする研究は相対的に少ない。そのため、その点について、さらなる研究が望まれる。

参考文献

樋口耕一 (2020) 『社会調査のための計量テキスト分析 第2版』ナカニシヤ出版